第4版へのまえがき

特定の機器やソフトウェアに依存しない普遍的な知識や技能の習得と，自らの問題解決に役立つ情報の実践力の育成を目的として編纂された本書が，めまぐるしい情報環境の変容の中で 15 年以上の長きに亘って大学レベルの情報教育テキストとして多くの方々にご活用いただけておりますことに深く感謝の意を申し上げます。引き続きみなさまのご期待に応えられますよう，前回改訂以降の技術的内容や事例の更新とともに，特にコロナ禍で激変した CMC（コンピュータを利用した相互コミュニケーション）環境に準拠した内容となるよう今般の改訂に取り組みました。

今回の改訂の主なポイントは，コロナ禍で一般化した遠隔での CMC についての理解を深めるとともに，それらの CMC を中心とした新たな情報環境下での実践力を育めるよう，CMC に関する第３章を根本的に見直し，構成，例示，演習課題も，遠隔での講義や実習に相応しい内容に改めたことにあります。特に，遠隔コミュニケーションの機能的特性とそれらに起因する問題状況との概観を通して，それらの関係性や事象全体の理解を深められるよう，CMC の発展経緯について大幅に加筆いたしました。また，遠隔コミュニケーションでの具体的な問題や課題に対処できる実践力を養えるよう，現状でのアプリケーションやインターネット上のサービスに即した実践例や課題を提示しました。これらの例示に関しても，本書で例示に使用する OpenOffice と同様に，各自の CMC 利用環境に応じた遠隔コミュニケーションを実践できるよう，できるだけ一般的かつ特定の商用アプリケーションやサービスに依拠しない記述に努めています。

情報環境に呼応するように大学生諸君の情報端末の利用スキルも著しく向上していることが実感され，授業における実習課題についての質問も減少傾向にあります。しかしその一方で，ネット検索からの類似な実践例や不確実な言説に惑わさ

情報の基礎･基本と情報活用の実践力 第4版
内木 哲也･野村 泰朗著
https://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320124752

れて誤った解釈や方法で課題に取り組む姿が散見されるようにもなっています。実際，表計算の課題では，基礎であるべき除算ができずに検索で得た複素数関数を使用したり，例題にある在学者数の男女合計に学校数まで含めて平然としていたり，cm を m にする関数を探したり…，と操作技能以前の基礎学力に疑念を抱かせるような事例も多々見られています。これらの事例は，受講生たちのアプリケーションに対する誤った操作概念や先入観がもたらしたものといえ，定型的な支援機能の操作スキルのみを身につけ，操作上の注意点やアプリケーションがもたらす情報処理の意義が理解されておらず，利用者自身の道具となっていないことを如実に物語っています。このような事態を危惧して第 3 版で提示した創作的課題についても，作品自体の出来映えは，多様なツールの普及とも相俟って，この 10 年で向上しているように見えますが，作品へのこだわりや制作上の創意工夫などの制作意欲は次第に減少しているように思われてなりません。

情報技術に限らず，技術や技法はそれらを駆使する人の能力や意識を表明する手立てといえます。本書を手に取られた読者のみなさんには，アプリやネットサービスがもたらす道具としての表面的な機能や利便性に目を奪われることなく，是非一旦立ち止まって，その背後に潜む処理の方法や考え方を理解しようと努めてみて貰えればと願ってやみません。そして課題や仕事への対処以前に，知識や思考力といったみなさん自身の能力開発に役立つ情報技術の実践力を見出す手がかりを得るための座右の書として，本書をご活用頂けましたら幸いです。

最後に，本書の改訂に際して細心の注意を払って丁寧に取り組んで下さいました共立出版株式会社編集部の天田友理氏に厚く御礼申し上げます。

2021 年 10 月

内木哲也
野村泰朗